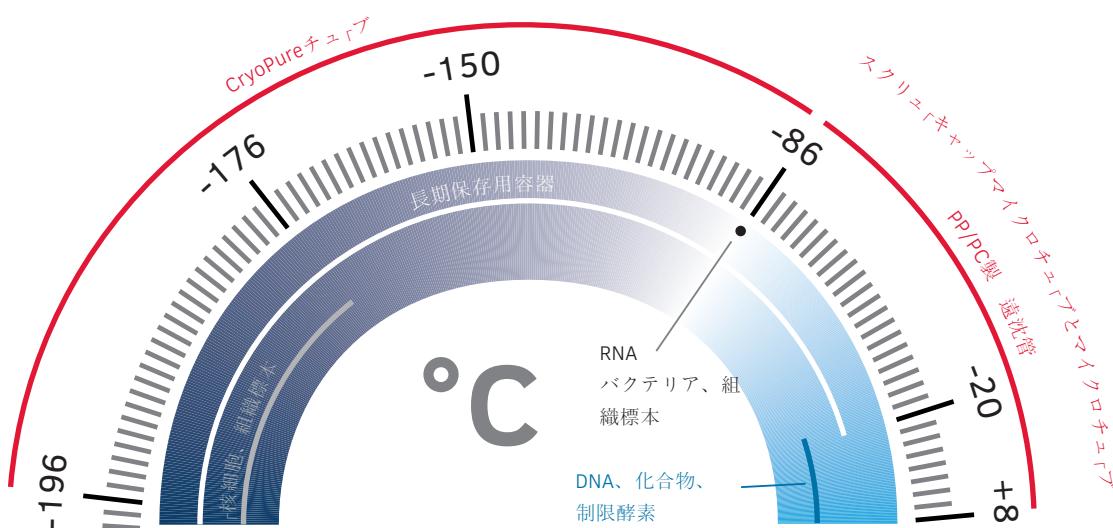


ザルススタッフチューブで凍結保存する場合



物質、サンプルによっては低 \downarrow 保存が必要な場合があります。例えばDNA、制限酵素などは8°C-20°Cの間、またRNA、バクテリアや組織標本は-80°Cまでの \downarrow 度での保存が必要となります。通常の保存にはプラスチック容器などを使用しますが、極低 \downarrow になると素材に負荷がかかります。 \uparrow 社は各 \uparrow の保存 \uparrow 件に \uparrow してポリプロピレン、ポリカーボネートなどの適切な材質の容器をお薦めしています。機密性に \uparrow してはチューブのみならずキャップの選 \uparrow も非常に重要です。

プラスチック製チューブで、 $\uparrow\uparrow$ のテストを行ってきた \uparrow 社の $\uparrow\uparrow$ に基づき下記の注意点をお \uparrow えします。

- 基本的に \downarrow 度範 \uparrow 0°C未 \uparrow では、プラスチックの硬度が下がるので、過度の力 \downarrow 的負荷は避けるようにして下さい。
- 凍結 \uparrow 件として \uparrow 容物が均一に、また下層から上層へ凍結が移動するよう設定してください。上層から凍り始めると、チューブ底部に膨張による \uparrow 裂が \uparrow 生しやすくなります。
- チューブが膨張しても十分余裕のあるラックか保存容器をご使用下さい。 \uparrow 著な絶 \downarrow 特性があるため、 \uparrow 泡スチロール容器での保存は特にお薦めできません。

容器負荷は凍結される溶媒や使用 \uparrow 件によって大きく異なるので、0°C以下の \downarrow 度 \uparrow 件や特殊な環境でチューブを使用する場合は、特定の \uparrow 件でテストし、お客様自身でお確かめ下さい。

この記載はガイドラインとして示したものであり、品質として保証するものではありません。